

○地元産業への影響について

- 1 現在の江津工業高校がなくなれば、島根県西部地域の産業人材育成に大きな支障がでる。
- 2 平成30年度卒業生からは、電気系・建築系の卒業生が少なくなり関連業会へ影響がでる。
- 3 もし江津工業高校が他校と統合し、機械科・電気科・建築科が復活すれば地元企業の中にも歓迎する企業もでてくることが考えられる。(学校名では無く、機械・電気・建築を学習した生徒が欲しい)

○何故、学校存続を望むかについて

- 1 今までであった学校が無くなれば、その地域の活気が無くなる。何となく寂しくなる感じがする。
- 2 地元へ高校が無くなれば、これから高校入学する生徒の通学距離が長くなる。通学費用がかかる。
- 3 地元企業・産業への影響。但し、高校統合でも工業科(2科以上存続)なら影響はほぼ無い。
- 4 卒業生の気持ち。校名を残したいという思い。(統合される両方の学校とも同じ思い)

○地元住民の思い

- 1 「江津工業高校、江津高校の両校を存続させたいという思い」と「少子化の現状を考えれば、統合も致し方ない」という思いが交錯している。(江津市あり方検討委員会資料からも窺える。)
- 2 私立石見智翠館高校に対抗できる県立高校が欲しい。ある程度の規模は必要と考えている。
- 3 地元住民は、家族に江津工業高校・江津高校の両校の卒業生がおり「どちらかを無くせ」とは考へない。

○本校生徒にとって(在校生やこれから入学する生徒)

- 1 県教委の再編成計画や江津市県立高校あり方検討会でも記されているように、高等学校において、**学力・部活動・学校行事等を充実させるためには、ある程度の規模(4学級以上)が必要**である。教員の定数は生徒の定員で決まるため、学級減は教員数減となる。

(1)学習の指導上の問題

- (a) 専門高校は入学定員80名の2クラスでは普通科の教員は各教科1名となる。特に理科や地歴・公民科ではその専門性が必要であり、確保が難しくなる。
- (b) 放課後の補習(授業や資格取得)と部活動の同時進行が難しくなる。
- (c) 教員が出張等で不在の時、授業変更が難しくなり、自習の時間ができる。
- (d) 個別指導の対応も難しくなる。

(2)部活動の数(種類)と指導者の問題

- (a) 在校生・教員が減れば、部活動の精選(廃部)が必要となり、生徒の選択肢が減る。
- (b) 教員が減れば、部活動の指導においても、技術指導ができない種目が増える。県は教員以外の地元の外部指導者については、減らす方向??? (予算面と指導上のトラブルの両面??)

(3)学校行事について

- (a) 体育祭をはじめとする体育系行事(校内レガッタ、球技大会)の盛り上がり欠ける。

(4)その他について

- (a) 在校生・教職員の減少は、寮運営(金銭面・日直・舎監)についても支障が出てくる。

○大切なことは

高校は入学定員で教員数が決定するため、生徒定員が減れば教員数も減少する。教員の減少は、授業、学校行事、部活道、寮舎監、個別指導などいろいろな面において支障をきたす。これから入学する生徒にとって、ある程度の規模の高校でなければ、すべてにおいて充実した高校生活を送ることは難しい。部活動数を減らし部員数を確保するか。部活動数はそのままに少人数のまま活動するか。(団体競技は試合に出ることができない。)学校行事においても同様で、体育祭など2クラスでは盛り上がり欠ける。また地元産業や企業にとっては、工業系(機械・電気・建築)学科が廃科にならない限り、社員(労働力)の確保はできる。

「本校卒業生の方々の想い」と「これから高校へ進学する生徒のために」の両方の想いを大切にしなければと感じているが

これから高校をめざす地元の子供たちのために

- ・ 学校規模としては、少なくとも1学年4クラスの高校
- ・ 工業科として、機械科、電気科、建築科の3系統の学科の学習
- ・ 中学生の願い、江津市民の考え、地元企業の考え、卒業生の想い

を間違えないようにすることと考える。

☆島根県教育委員会「県立高等学校再編成基本計画」〔平成21年度～平成30年度〕平成21年2月12日

島根県教育委員会ホームページ <http://www.pref.shimane.lg.jp/gakkokikaku/saihen/keikaku.html> ※抜粋です。

1～3 省略

アンダーラインは本校が記す。

>

4 今後の再編成のあり方(p11)

(1) 基本的な考え方

①一定の生徒数や学校規模が必要

- ・多様な学習ニーズに対応する教育課程とそれを可能にする教員配置

生徒の多様な学習ニーズに対応するためには……(省略)……たとえば、普通高校の場合、1学年4学級以上の規模であれば、理科や地理歴史科において科目別の専門教員を配置することがほぼ可能となり、より適切な教科指導を行うことができる。

- ・部活動や学校行事の充実 (内容省略)

- ・集団の中で社会性とたくましさを培うことのできる教育環境 (内容省略) ②省略

- ③各学科の配置については、生徒の進路希望などを踏まえながら配置するとともに、志願者が減少している専門学科などについては、本県の産業構造や産業振興との関わりなども十分に把握したうえで、望ましい学科や高校のあり方を検討していく。(④～⑥省略)

(2) 1学級当たりの定員(p12)

本県の県立学校の1学級当たりの定員は、「標準法」に基づき、すべて40人となっている。今後も国の動向を見ながら、教育効果や財政事情なども考慮しつつ総合的に検討していく。

(3) 望ましい規模

県立高校の望ましい規模は、上記(1)の①で示したように、高校教育の水準を確保し、生徒にとって魅力と活力ある学校づくりをしていく観点から、「1学年4学級以上8学級以内」とする。

(4) 高等学校の統廃合基準(p13)

○普通科を設置する1学年2学級の高校については、入学者数が入学定員の5分の3を2年連続で下回ることが見込まれる場合には、引き続き存続させるか、近隣の高校と統合するかを適当な時期に検討する。

○専門高校又は総合学科を設置する高校が1学年2学級になつたり、2学級となることが見込まれる場合には、原則として、近隣の高校と支障のない形での統合を検討する。(以下省略)

(5) 統合再編成を実施する場合の留意事項

○「実施計画」の公表時期

高校の統合または募集停止を公表する場合には、当該校への進学を予定または希望している中学生への配慮が必要である。具体的には、統合・募集停止となる年度に高校を受検する生徒だけでなく、当該校に入学した場合、最後の入学生となる生徒に対しても、出願校決定の前に情報を提供する必要がある。

現在、中学校では一般的に2年生の2学期頃から高校の学科調べ等が始まる。このような中学校における進路指導の実態を踏まえ、原則的には統合または募集停止を行う2年前の1学期末までに、「実施計画」を公表することとする。

5 省略

6 実施計画について(p16)

これまで述べたように、多様な選択肢の中から生徒が主体的に授業や部活動を選択できるようにしたり、さまざまな場面で多様な個性や価値観と触れあい、切磋琢磨できる環境を整えたり、また、あらゆるタイプの生徒の進路希望や心の悩みに適切に対応したりするためには、一定以上の学校規模を有することが望ましい。このことから、本県では高校の望ましい規模を1学年4学級から8学級としている。

このため、今後も生徒数の減少傾向が続く中であって、学級数削減という手法だけでは、

江工会 関東支部総会 「本校の現状について」

注)裏面資料も参照しながら見て下さい。

○入学生が少ない理由？について

- 1 中学卒業生数の減少(絶対数が少ない)。石見部で定員を満たしている高校が無い。
- 2 遠距離通学を敬遠する傾向がある。(近くの学校でいい)
- 3 中学生やその保護者、中学校教員には、専門高校へ行けば将来の職業選択が狭まったり、生徒自身の可能性が広がらないと考えるものも多い。(普通高校卒業時に広い選択肢の中から大学を選べば、その可能性が広がると考える。)但し、普通高校(大田・江津・浜田・益田)も定員割れ状態。
- 4 専門高校の特徴は、就職できるという事であり、その方向を進学向けると普通高校と同じになり、その存在意義が薄れる。(卒業生を地元に残す(地元企業活性化)という目的もある。)
- 5 就職内定率100%ということが、いかに難しい事であるかが中学生・中学保護者に理解されない。
- 6 少子化により家庭に子どもが少なくなり、高校卒業で働かせるのが「可哀想」とか、「もう少し遊ばせてやりたい」という親の想いもある。
- 7 江津工業高校は、「怖い」「荒れている」というイメージが払拭されない。(現在でも卒業生の思い出話がそのような内容になることが多い。) 本校生徒・保護者の声を広めていく運動中
- 8 工業高校は、勉強が難しい、提出物が大変、頭髪・服装等厳しいということを中学生が嫌う。
- 9 私立高校への進学に対する保護者・生徒の心境の変化。友達が行くから自分も行くという傾向。
- 10 不合格になることを極端に嫌う傾向。(受験に「難しいけど挑戦してみよう」とは思わない。)
- 11 H29年入試より、第2志望校制度がなくなり志願状況を確認して一回志望校を変更できるので、受検者の絶対数がいない地域で、無理をして定員オーバーしている高校を受検する中学生はほとんどいないと考えられる。よって、変更後も石見の高校で定員を超える高校はほぼ無いであろう。
- 12 県外生の入学については、地元受検生の思い(上記11)や県内の身元引受人の問題、寮運営の問題、募集方法(UIターンフェアのみ)、近隣高の対応(地元優先)等沢山の問題がある。

☆中学校・小学校在籍数の推移 (平成26年データ 実際はデータより毎年減少している)

学年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年
中学卒業年	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	H32.3	H33.3	H34.3	H35.3
旧江津市内	183	195	175	197	183	162	175	182	160
桜江町	22	26	22	23	22	15	13	18	23
旧浜田市内	332	346	364	347	383	375	348	339	338
大田市	267	321	307	318	294	288	265	292	276

○統廃合問題について

- 1 島根県教育委員会が江津工業高等学校の統廃合についての言及したことは無い。
- 2 市民、県民の噂話では以前(10年以上前)からある。近年噂話が多くなった。
- 3 県教委「県立高等学校再編成基本計画」では、(別紙資料参照)
 - (1)専門高校は、1学年が2学級になったり、2学級となることが見込まれる場合には、原則として、近隣の高校と支障のない形での統合を検討する。
 - (2)普通科を設置する1学年2学級の高校については、入学者数が入学定員の5分の3を2年連続で下回るが見込まれる場合には、引き続き存続させるか、近隣の高校と統合するかを適当な時期に検討する。 となっている。
- 4 中学生・小学生の生徒数を見ても今後増える見込みは無い。また、上記表の人数より更に年々生徒数が少なくなっている。(江津市毎年500人程度の人口減少と言われている)
- 5 県外入学者については、県内に身元引受人が必要であること。2学級となり地元生徒への募集や寮の運営についても、いろいろな懸案事項がでているなど、生徒数増には繋がりにくい。
- 6 平成29年度高校入試制度改革により、第2志望校制度がなくなれば、この地域で高校の定員を超えてまで受検することは、ほぼ無いと考える。学級増が難しくなった。
- 7 例えば2校が統合された場合、新しい学校の母体として残る学校と、統合されて無くなる学校では、地域の人や卒業生の感覚(抱く印象)が異なる。